

決算に合わせて開示する高速道路事業関連情報（平成 26 年度）のポイント

1. 決算ベースの債務残高の推移

- 平成 26 年度期首の債務残高は、29 兆 9,829 億円でしたが、期中に 9,881 億円の債務を引き受け、4 兆 630 億円の返済及び 2 兆 4,750 億円の債券発行等を行った結果、期末（平成 27 年 3 月 31 日）の債務残高は、29 兆 3,925 億円となりました。

【本文 P1 参照】

平成 26 年度の債務残高の推移

		平成 26 年度	(参考) 平成 25 年度
期首債務残高	A	29 兆 9,829 億円	30 兆 7,983 億円
債務引受額	B	9,881 億円	5,323 億円
債務返済額	C	4 兆 0,630 億円	4 兆 3,142 億円
資金調達額	D	2 兆 4,750 億円	2 兆 9,560 億円
債券発行差額償却による簿価増	E	95 億円	105 億円
期末債務残高	A+B-C+D+E	29 兆 3,925 億円	29 兆 9,829 億円

注 1) 資本金及び道路承継未払金（平成 25 年度末 378 億円、平成 26 年度末 907 億円）を含んでいません。

注 2) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

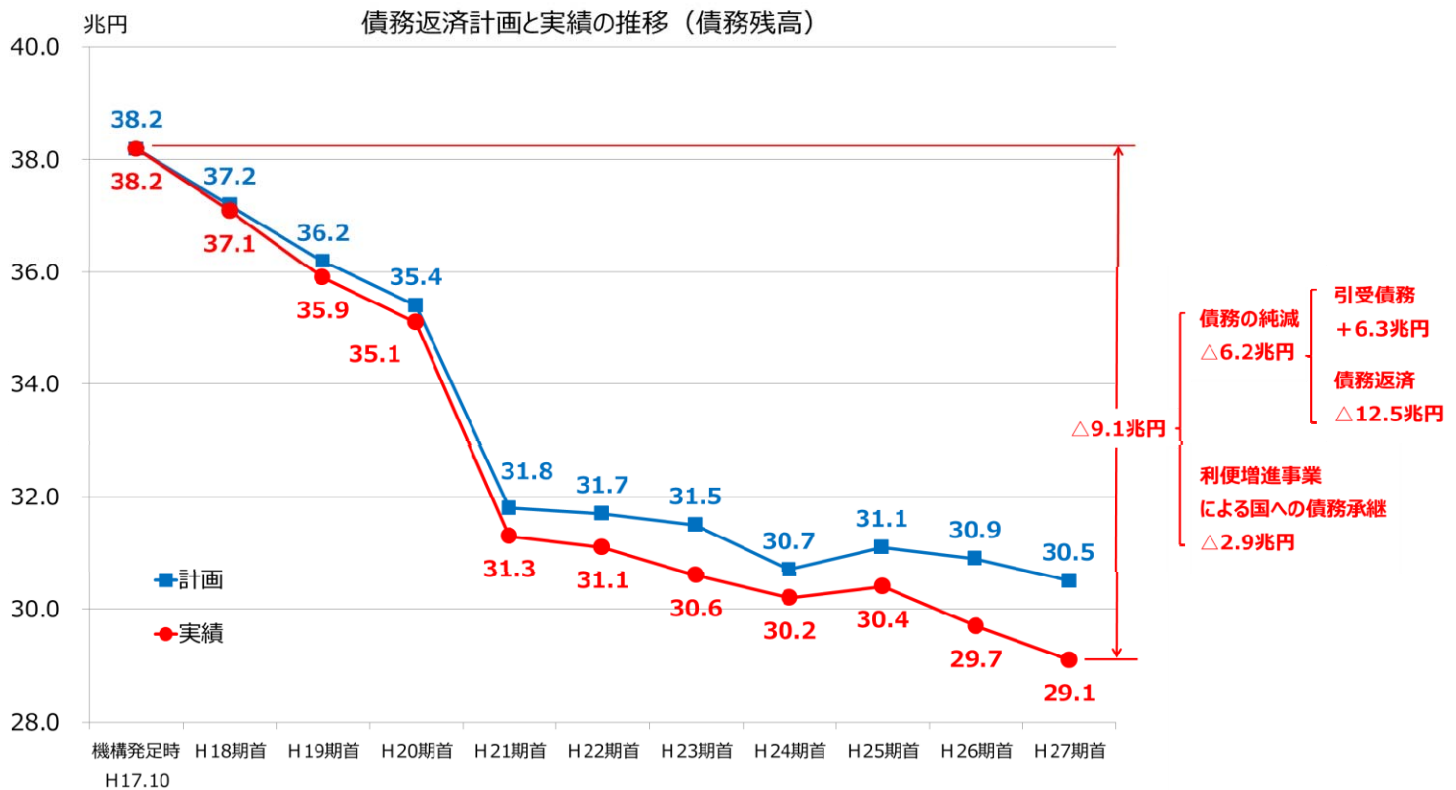
2. 資金調達の状況

- 平成 26 年度資金調達実績は、2 兆 4,750 億円（政府保証債 1 兆 9,400 億円、民間借入金 600 億円、財投機関債 4,750 億円）。
- 今後の金利上昇リスクを軽減して債務返済の確実性を高める観点から、「長期・固定」を基本としつつ、低金利環境を捉え、特に超長期（10 年超）による調達割合を高める方針の下で資金調達を実施。
- 幅広い IR の実施による新たな投資家の開拓やローン方式による新たな資金調達の導入等の取り組みにより、調達全体に占める超長期の割合を 30% まで高め、平均調達利率 0.77% と低利かつ安定的に調達。
- 上記取り組みの結果、有利子債務の平均利率は、期末時点で 1.40% まで低下。

【本文 P2~3 参照】

3. 債務返済計画と実績の対比

○機構発足時以降の計画と実績の対比は以下のとおりです。



※ 債務返済計画では、決算と数値の扱いが異なる部分がありますので、計画実績対比を行う際には決算数値を債務返済計画ベースに修正した数値を用いています。

○ 債務返済計画ベースの平成26年度期首債務残高は29兆6,794億円でした。平成26年度は、収支差1兆6,124億円、会社からの引受債務1兆410億円の結果、平成27年度期首債務残高は29兆1,080億円となり、平成26年度期首に比べ5,714億円減少し、計画に対しては1兆4,071億円下回りました。

【本文P5~6参照】

4. その他

平成26年度の高速度路会社別・路線別営業収支差は本文P10~11等をご参照ください。